

# OISCA

—人と育む、地球といきる—



(TOPIC)

## 住み続けられるふるさとをつくる

～インドネシア・マングローブプロジェクトの現場から～

MARCH | 3  
2025

今月の  
OB & OG

日本で学んだオイスカ研修生の今を紹介します。

スタッフとして  
責任の重さを感じながら  
頑張っています！



FILE No. 04

ミン・ミン・タン (33)

愛称：ミン

- 出身国 ミャンマー
- 研修歴 四国研修センター/  
地域開発コース (2014年3月～12月)
- 現在の職業 四国研修センタースタッフ



初めてできた外国人の友達と一緒に(右から2人目)

## 自信を持って頑張る

私は2014年に研修した四国研修センターに今年の1月、スタッフとして戻ってきました。主に厨房での食事づくりや食品加工の部門を任されています。スタッフとして働くのは研修生の時とは全く違い、責任の重さを感じながら日々過ごしています。

研修前、私は何事にも自信が持てない性格でした。特に初めて取り組むことに対しては心配をし過ぎるところがありましたが、日本での研修を通して、自信を持ってできるように頑張ろうと前向きに考えられるようになりました。今回日本に来るときもスタッフとして働くことに対して、私に務まるかな？ と不安もありましたが、「自信を持って頑張る！」と決めてここに来ました。

これから3年間、研修生の時にはできなかったことをたくさん勉強して帰りたいです。お菓子のつくり方、特にデコレーションケーキにも

興味があるので勉強する機会があるといいなあと思っています。

今、私の国は政治的な問題を抱えてたいへんな状況ですが、現地のスタッフができる活動を続けながら頑張っています。私も国のことを思いながらここで頑張っていきます。皆さん、ミャンマーの活動を、そして四国研修センターを応援してください。よろしくお願いします。



「先生」と呼ばれる立場に責任を感じながら研修生と向き合う

## 全人類が生きる道

「今や全世界が生き、全人類が生きる道を考えなければならぬ。」

原子力時代を迎え、第二の産業革命の到来が予想され、原子兵器の恐怖のなかに、明るい未来の想像を描いている。恐怖なく不安のない平和世界を迎え、全世界が生き、全人類が生きるために、第二の産業革命に先立って、産業精神の革命をはからなければならぬ。生きる本体すなわち実践活動は産業にあるからである。人類が生きためには産業を主とすべきであり、産業が生命の根拠となる。宇宙の大生命を継承した産業への前進である。この産業あつて人類世界は進化発展し、国土の経営がなり、人類は天賦の機能を発揮することが出来るのである。

奥深い産業の意義を精神的に究めて、人類生活の基礎とした(創立者・中野與之助著『産業の宗教』より)

大東亜戦争終結より八十年という歳月が流れました。

日本は唯一の被爆国として、原子兵器の恐ろしさを知っています。創立者は原子力を平和利用することによって、生活が豊かになることを十分知りながらも、人類が真の幸福を得るためには産業が大事だと考えていたのです。

創立者が説くところの産業とは、宇宙大自然(太陽・月・星などの天体・大地)の恩恵によって、物を産み出す業のことです。大自然が正常であれば、陸では豊かな稔りが得られ、海では大漁となります。しかしながら、今日のように異常気象等に見舞われますと、甚大な被害を蒙り、生活に支障を来します。ですから、創立者はこの人類萬物を生かしてくださっている大自然に感謝し、大自然と共存する(過剰に搾取しない)道を歩むことが国土を守り、人々の生活の安定に繋がると考えています。その上で工業を発展させる。その行程を経ることが、すべてが生きる道になると考えていたと思います。



## OISCA MARCH 2025 | 3 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 TOPIC **住み続けられるふるさとをつくる**  
～インドネシア・マングローブ植林プロジェクトの現場から～
- 10 今月のこの人 オイスカ四国支部賛助会員 車谷康太
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススメOISCA
- 14 INFORMATION 新着情報 ほか

### What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際協力NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持ち活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

### OISCAという名称の意味

O	rganization	機構	人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。
I	ndustrial	産業	
S	piritual	精神	
C	ultural	文化	
A	dvancement	促進	

**国内** 講演会「気候変動と防災になぜ森林？」  
**広い視野で森林をとらえ  
海外での植林の意義にも言及**

1月21日、東京大学名誉教授である太田猛彦氏（専門…森林環境学、森林水文学、治山砂防学）を迎え、講演会を実施。会場とオンラインを合わせて121人が参加し、行政や森林土木関係者に限らず、多くの方々が関心を寄せていることがうかがえました。

講演は、地球環境全体の状況を俯瞰しつつ、森林の歴史、法律、国際情勢、世論など多角的な視点から総合的に展開。特に戦後、森林・林業政策による造林事業を進め、荒廃した山々の森林を回復させた日本の治山・治水の成功例を世界へ発信する重要性を強調し、「途上国ではいまだに裸山が



太田氏の著書「森林飽和」をベースとした講演に熱心に聞き入る参加者

連なる地域が多い。森林の回復と維持が喫緊の課題」と指摘しました。また、森林は約3.6億年前に出現し、地球環境を創造してきた歴史を踏まえ、「森林が温暖化や生物多様性と深く関わるのは必然。気候の安定には、地域の気候に適した植生を回復させなければならぬ」と訴えました。最後に、日本は約100年前まで続いた森林劣化の時代を経て、現在は森林飽和の時代であり、「これからの林業は、温暖化や気候変動への対応、生物多様性の保全、防災や水保全などの多面的機能を果たす公益的産業であるべき」とし、「森林が人類社会に貢献する存在であらねばならない」と締めくくりました。

参加者からは、「日本には森林劣化の時代から森を豊かにしてきた実績があり、その経験を途上国で活かす役割は大きいと感じた」との声がありました。

今後も、太田先生の知見をベースに持続可能な森づくりの活動を続けていきます。

**海外** 在中国日本大使より表彰  
**沙漠緑化の取り組みが評価され  
オイスカ国際カレッジと富樫専門家が受賞**

2024年12月10日、北京の日本大使館で在外公館長表彰式が行われ、一般財団法人オイスカ国際カレッジとその理事であり、ウズベキスタン沙漠化防止プロジェクトの専門家として活躍する富樫智氏が表彰されました。

これは、約30年にわたる内モンゴル自治区における沙漠緑化とその取り組みを通じ、現地の環境改善と牧民の生計

向上に貢献した点、また活動に参加するために多くの日本人が同地を訪れ、日中間の交流や相互理解の促進にも寄与した点が評価されたものです。活動はすでに現地に移管しましたが、富樫氏が確立した技術は、現在ウズベキスタンでの沙漠化防止プロジェクトに役立てられています。

また、上海、広州で在留邦人の子弟を対象にした日本語



表彰状を手にするオイスカ国際カレッジの黒田祐之進理事長（中央）と富樫専門家（右から2人目）

**国内** 海岸林再生プロジェクト  
**本数調整伐4年目がスタート  
ボランティア活動もスムーズに進行**

宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」では、「強靱な海岸防災林」を目指し、今年も1月下旬から本数調整伐（間伐）を開始しました。宮城中央森林組合や松島森林総合、全国からのボランティアの手で、3月上旬までに2018年に植えた16haを対象に2万7000本を伐採します。これで名取市海岸林全体の90%が一巡目の間伐を

終わることになります。

1月25日には、国内センターの海外スタッフと農業研修生計6名、卒論準備や研究に取り組む大学生などの若い世代や、ベテランボランティア総勢31名が汗をかきながら、終日作業を行いました。22年1月の伐採開始から4年目でもあり、怪我なくスムーズに、一人あたり30本以上を伐採しました。25年度は、年間12



地域や国境を越え、協力して取り組むボランティア活動で、参加者同士の絆も深まる

00人前後のボランティア参加が見込まれます。また、「全国育樹祭」が宮城県で開催される予定で、式典前日の10月4日には、海岸林のバスツアーとシンポジウムが計画されています。



## 海外 フィリピン・アブラ農林業研修センター 北海道・宮城・関西の3支部が支援 農業機械の寄贈式に会員ら150名参加

2月5日、フィリピンのルソン島北部にあるアブラ農林業研修センターでトラクターの寄贈式が行われ、日本から北海道支部の会員ら8名が参加しました。今回のトラクターの購入は、同センターのデールフィン・テソロ所長から、農業研修用に必要との話を聞いた北海道支部が会員に支援を呼びかけて資金を募ったことで実現したものです。また、長く同センターの支援が続けてきた関西支部のほか、宮城県支部も、センターの活動を応援しようと寄附を募り、合計449万円が集まりました。寄贈式は、研修生や地元住民、小学生を含め100人以上



上/贈られたトラクターとテソロ所長

下/寄贈式でテソロ所長にトラクターのレプリカキーを手渡す町村副会長

上に参加し、ダンスが披露されるなど賑やかに開催されました。式典の中で北海道支部の町村均副会長は、「トラクターは鉄の塊ですが、ここには私たちの気持ちが詰まっている。アブラの農業の発展に役立てていただきたい」と挨拶。またテソロ所長からは、「トラクターは研修生センターだけでなく、地域の人と一緒に使っていく。みんながとても喜んでいく」と感謝の言葉が述べられました。

オイスカでは、支部と海外の現場の連携を強化し、相互に交流しながら国際協力が進められるよう取り組んでいます。

## 海外 中野総裁パラオ訪問 大統領就任式典に参加 農業大臣との面談も

1月14日〜20日、オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁をはじめ、オイスカ会員ら総勢7名が、パラオ共和国を訪問しました。今回の渡航は、同国のスランゲル・S・ウィップス・Jr大統領より2期目の就任式への招待を中野総裁が受けたことにより実現したもので、式典への出席のほか、ステイブーン・ヴィクター農業大臣との面会や、オイスカパラオ総局のカリスタス会長およびメンバーとの協議の機会も設けられました。



ウィップス大統領(右)の就任式典にて

15日のヴィクター農業大臣との面会は、オイスカの農業研修への期待が強いピーター・アデルバイ在日パラオ大使の調整で実現、その中でヴィク

ター農業大臣は、「パラオで特に産業が発展したのは日本の統治時代。日本人と一緒に働き、一緒に成長してくれる」と述べ、かつてオイスカが同地に研修センターを開設し、青年への農業指導を進めていたことに触れ、再び若者育成の機会を模索したい意向を示しました。これに対し、パラオ政府が研修生の選考や帰国後の活動のサポートに責任を持ち、一部費用負担などをすることで、訪日研修生として受け入れられるのではないかとして、今後協約書締結を視野に入れた協議を進めていくことが決まりました。

また、同日行われたパラオ総局との協議には、1990年にオイスカ中部日本研修センターで学び、現在は同国の農業省で働くトレブル・レイ氏も参加。新しい農家育成を推進する政府と、総局との連携の可能性について話し合われました。

翌16日、一行は、大統領就任式典に出席。大統領の就任演説の中では、日本との関係性にも触れられました。また、17日には、オイスカパラオ研修センターを訪問。総局のカリスタス会長らによって施設が管理され、農業の取り組みが続けてきたこと、同地の活動を支援してきたオイスカ西日本支部が1980年代に建てた日本人戦没者の慰霊碑を、カリスタス会長が守り、管理を続けてきたことなどに対して、中野総裁から感謝の言葉が伝えられました。

日本人不在の中でも「オイスカ精神」を維持し、活動を進めるカリスタス会長をはじめ、かつて日本の研修センターで学んだ現地のOBとともに、今後、パラオにおける協力の活性化にむけて検討を進めていきます。



アデルバイ大使(前列右から3番目)、ヴィクター農業大臣(前列左から3番目)と

また、同日行われたパラオ総局との協議には、1990年にオイスカ中部日本研修センターで学び、現在は同国の農業省で働くトレブル・レイ氏も参加。新しい農家育



18日には、オイスカ総局や関係者も参加し、慰霊祭が行われた

住み続けられる

# ふるさとをつくる

インドネシア・マングローブ植林プロジェクトの現場から

〈インドネシア・プロジェクト主要地点〉



現在オイスカは、インドネシアのジャワ島北部沿岸を中心とする8県で、マングローブの植林を進めています。豊かな景観をもたらし、沿岸に暮らす人々の生活を海面上昇や海岸浸食の脅威から守るマングローブの森ですが、今、その森もまた、さまざまなリスクにさらされています。

沿岸域に迫る脅威からマングローブの森と住民の生活をどう守るか。2024年9月に現地を視察した本部・海外事業部の林久美子がレポートします。

## 首都移転に見る課題

インドネシアの都市「ヌサントラ」をご存知ですか？2045年の先進国入りを目指して経済発展を続ける同国は、首都ジャカルタの移転を計画しており、カリマンタン島に新たに開発している新首都が「ヌサントラ」です。

移転の理由として、過剰な人口の集中に伴う交通渋滞や大気汚染などとともに挙げられているのが地盤沈下と海面上昇によるリスクです。インドネシアは1万7千以上の島々からなる世界第4位の人口を抱える国ですが、その人口の約6割がジャカルタがあるジャワ島に集中し、ほかの島の開発や発展が遅れているとも言われ、今回の首都移転は地方経済の活性化の推進を目指す目的もあります。

しかし、首都移転により注目された地盤沈下や海面上昇によるリスクは、ジャカルタだけの問題ではありません。地下水の過剰な汲み上げによる地盤沈下は、人口が集中するエリア以外に観光客が集まるエリアなどでも深刻だといえます。また、気候変動が一因と考えられる海からの風や波などの変化、海岸線の浸食、港湾工事などによる海流の変化なども、沿岸に暮らす人々の生活を脅かしています。

## マングローブも犠牲に

オイスカが現在マングローブ植林プロジェクトを行っているのは、ジャワ島北岸の6県とジャワ島東部の北側に位置するマドゥラ島の2県。これらの活動は東京海上日動火災保険株式会社をはじめとする日本の企業などからの支援



〈各地で確認されたマングローブや防波堤(消波ブロック)の被害〉

- 1：海岸浸食が進み、マングローブもなぎ倒されてしまっている(ジュバラ県)
- 2：根元から倒れてしまっているマングローブ(パティ県)
- 3・4：海岸に育っていたマングローブの根元に砂が堆積し、枯れてしまっている(ブマラン県)
- 5：森の前面のマングローブが強い風と波の犠牲となる(ダマック県)
- 6：強い波の影響で破壊されたコンクリートの防波堤(ダマック県)



プロジェクトで植えたマングローブ林の中で、別の種類のマングローブの種子が自然に発芽して生長したことによって、より大きく密な森に育っている。中央付近に見えるのは展望台(プレベス県)

で進められています。各県ではオイスカの研修を終えたコーディネーターたちが地元行政や各村の植林グループメンバーらと共に活動しています。

豊かなマングローブの森が順調に生育している現場もありますが、近年コーディネーターの頭を悩ませているのが、植林後何年も経過して、しっかり根付いたと思われるマングローブまでもがなぎ倒され、流されてしまうほどの強い風や波による被害です。近隣、もしくは5〜10キロほど離れたところで行われた河

川や港湾の工事によって引き起こされる土砂堆積や海流の変化も、マングローブの生育に影響を及ぼしているケースもあります。

2019年から23年までの5年間の植林成果を調査した結果、プレベス県のように天然更新(自然に種子が発芽して生長した木があること)が見られ、生存率が100%を超える地域もあれば、中には9%という残念な結果となった地域もありました。

※本調査は、1999年からオイスカと協働でマングローブ植林を進める東京海上自動車火災保険株式会社の支援で行ったもので、対象はスムネップ県を除く7県のサイト

## グレーインフラで マングローブと村を守る

ダマック県のティンブルスロコ村では、強い波により最前線のマングローブが流される被害が続いており、12年に現地政府がコンクリートを活用した防波堤（消波ブロック）を設置。オイスカはこの防波堤をモデルとして、19年と24年の2回にわたり、それぞれ100mと70mの防波堤を設置してマングローブと沿岸の集落を守っています。

オイスカは21年に60周年を迎えた際、EBS (Eco-System



上/ヒューム管の中に人力で砂を詰める作業は、満潮時に行われる重労働  
下/防波堤の後ろにはマングローブが育ち、土壌の堆積も進んでいる

based Solution / 自然の力を活用した社会課題の解決) を柱の一つとして打ち出し、1980年代から進めてきた各国での植林活動においても、Eco-DRR (森林など生態系を活用した減災・防災) をより強く意識した取り組みにシフトしてきています。そうした中、まさにEBSの代表的な活動ともいえるマングローブ植林プロジェクトに、グレーインフラ(コンクリートや金属などを活用した人工的構造物)を導入することへの疑問の声は内外から聞かれました。森などの「自然」に

親しみを感じる私たち日本人は、その森をつくる現場に人工的な建造物があることに違和感を抱きがちです。しかし、インドネシアのプロジェクトの現場のように海岸が浸食され、マングローブが流され、村に水が入り込んでいる現状や、人々がふるさとを離れざるを得ない今の状況を考えると、グレーインフラの力も借りなければ沿岸域を守れないところまできているのではないかと思います。

### 海に沈む村

ダマック県では、かつてマングローブを植えていたものの、今は海に沈んでしまった村も船に乗って視察しました。ここは過去に「沈みゆく村」インドネシア 海面上昇の恐怖」と題してNHKBSスペシャルでも紹介されていたベドノ村です。同番組内で、村長が「コミュニティを守るために集団移転を選択した」と話していたのが印象的でした。また、別の村ではふるさとを離れていく人を見送り、うらやむ気持ちを抱きながらも、今の暮らし以上に先祖が眠る墓地を守ろうとする人々



上/海に沈んだ村。電柱や家屋が残されている。写真はイスラム教の礼拝所  
下/かさ上げを繰り返すことで床が高く、天井が低くなっていく

の葛藤も描かれていました。今回の視察では、住民の声を聞くことは叶いませんでしたが、船から見たマングローブ林の奥の海の中に、移住を余儀なくされた人たちの家屋や電柱などが取り残されているのが見え、ふるさとを離れていった人々の無念の思いを痛感させられました。

また近隣の集落を視察した際には、海からの水が浸入しないよう、かさ上げを繰り返している家屋が気になりました。どんな床を高くすることで、天井がすぐ頭の上になっている家や、腰をかがめな

いと玄関を通れない家などがあつたほか、すでに住民がいなくなってしまうている家屋も見られました。このまま海面上昇が進めば、いずれこの地も住み続けることができなくなり、移住を迫られることになるでしょう。

### チャレンジとジレンマと

現地の人々に寄り添いながら活動が続いているコーディネーターたちは、地域の植林グループのメンバーと共に、さまざまな困難への対応や解決に向けた取り組みに力を注いでいます。植林地にゴミが



上/チャレンジの一つ。海に向かって三角形の柵を作り、その中に苗を植えている  
下/高速道路工事のため、竹で組まれた筏の上で多くの労働者が作業をしていた

押し寄せることで苗木の生育に影響が出ているサイトでは、地元政府の支援を得てゴミを捕捉するためのネットを設置したり、竹で作った柵で囲った中に苗を植えて保護をしたりと、問題の解決に向けた努力がなされています。

その一方で波の力があまりにも強く、多くのマングローブが流されてしまった地域では、海岸での植林を断念し、内陸の砂浜でのモクマオウなどの植林による海岸林造成や養殖池周辺でのマングローブ植林などにシフトしているケースもあります。自分たちが育ててきたマングローブが流

されてしまったショックも大きい上に、日本の支援者の皆さんに申し訳ないとの思いから表情が曇った植林グループメンバーの姿もありました。

ある地域では高速道路の建設が進み、大規模な工事が行われている現場を目にしました。これまでオイスカが植林してきたマングローブの森も一部が建設用地として使われ、新たな植林を行う代替地は国が保証する予定です。

今後こうした開発が沿岸域にどのような影響を及ぼすのか分かりません。人々の生活がより豊かに、より便利になるために開発も必要ですが、

ふるさとを追われる人たちができるだけ出ないようにと願うばかりです。

## 日本ができる支援とは

インドネシアと同じ島国の日本は海岸の保全に関して多くの知見があります。日本のODAでも22年から24年にかけて「ジャワ島北部海岸保全計画策定プロジェクト」が進められ、オイスカの活動地を含むエリアの海岸保全の基本方針が示されています。

オイスカはこれまで取り組んできたマングローブ植林に加え、この基本方針にも示されている通り、必要に応じてグレイインフラも活用しながら、沿岸地域の人々の生活を守る活動を進めていく必要があると考えています。また地域ごとに違う地形やさまざまな特性を見極めながらの活動には専門家の協力を積極的に仰ぐことも必要です。日本における護岸や養浜工事などの事例を学ぶコーディネーター研修も実施しながら、各地でのマングローブ植林プロジェクトがより地域に裨益するものになるよう、今後も取り組みを継続していきます。

## ナショナルコーディネーター ラフマットさんに聞きました!



Muhammad Prihartant Nur Rahmat

カラングニアル研修センターでの研修後、1992年に西日本研修センターで農業を学ぶ。96年には中部日本研修センターの農業指導者コースで研修。現在はマングローブ植林プロジェクトのナショナルコーディネーターとして8人のコーディネーターを束ねている。

——昨年プロジェクトを訪問させていただきありがとうございました。気候変動の影響の深刻さを目の当たりにしましたが、最近の様子はいかがですか？

昨年末、ダマック県のコーディネーターから、「12月初めから強い西風、強力な高波が続き、ティンブルスロコ村の防波堤が破損した」との報告を受け、1月20日に現地を訪問。思い浮かんだのは、まさに異常気象という言葉でした。例年ジャワ島では、12月中旬から終わり頃にこの季節風が吹き始めますが、今回はそれが早まった上、2ヵ月間止むことがなく、幹線道路への海水の浸入が毎日のように続いています。視察時はあまりに波が高く、風も恐ろしく強く、防波堤に近づけませんでした。東京海上日動火災保険株式会社のご支援で昨年完成したばかりの防波堤を含め約200mにわたり破損し、その後ろで育つマングローブの一部も被害を受けてしまいました。

——大変な状況ですが、どのように受け止めていますか

日本の支援者から託された責任がありますから、大きなショックを受けています。マングローブ林はできる限り補植をするなどの対応をしますが、気候変動の影響は自然の摂理ともいえるため、残念ながら私たちにできることはほとんどありません。ただ、プロジェクトを実施していなければとっくの昔にティンブルスロコ村は消滅していたと思われる。実際、防波堤の西側に位置するマングローブもない地区では高波の被害を受け、道路が寸断されてしまいました。大変な中ですが、各県で植樹面積を拡大させるとともに、地域住民とコーディネーターの両方に対するエンパワーメント支援を改善、発展させることで、彼らのモチベーションの向上を図りながら活動を続けていきます。

——日本の皆さんにメッセージをお願いします

今後も各地の植林グループのメンバーと協力しながら、ナショナルコーディネーターとしての使命を一生懸命に遂行していく心積もりです。ただ現在進行中の気候変動は、各地で洪水や土砂崩れといった自然災害を引き起こしており、そうした中での活動の難しさもご理解いただきたいと思います。そして、このことはインドネシアだけの問題ではなく、アメリカでもひどい山火事が発生しているように、日本を含む世界的な問題であることも再認識していただけたら幸いです。

# 今月のこの人

車谷 康太

オイスカ四国支部賛助会員



人のために  
尽くす仕事に  
やりがいを感じます！

## 「利他の心」で仕事も オイスカ活動も頑張ります！

2024年3月にソニー生命保険株式会社へ転職したのを機に、オイスカの賛助会員となった車谷さん。その前は、JR四国（四国旅客鉄道株式会社）で、同社の泉雅文顧問（当時相談役、オイスカ四国支部会長）の秘書を務め、そこで初めてオイスカを知ったといいます。

学生時代からの経験を通して、オイスカの活動にも通ずる「利他の心」を育み、自分の強みとしてきたと語る車谷さんに、お話を聞きました。

——オイスカに入会したきっかけを教えてください

転職前はJR四国で、5年間働かせていただきました。そのうち2年間、役員秘書をしていたのですが、誰の秘書をしていたのかというと、当時相談役で現在顧問をされている泉雅文さんです。実のところ、秘書の仕事は堅苦しいイメージがあったので、はじめは僕には向いてないんじゃないかと思っていました。でも泉さんは気さくな方ですし、僕も秘書になつたからといって肩肘を張ってはい、自分の

良さが出来ないのではないかと、思い、しっかりすると、ころはしっかりと締めながら、僕の良さである「利他の心」が出せるように意識をしていました。泉さんはオイスカ四国支部の会長でもあるので、僕もいろいろなどころについていく中で、初めてオイスカを知りました。香川県にあるオイスカの四国研修センターのイベントや会議、「四国のつどい」などに参加し、海外からの研修生との交流を通して、人材育成の様子や各地での環境保全活動もしていることも知りました。しかも国内だけでなく、海外でも幅広くやっていて、素晴らしい事業だなと感じていました。それで、何か僕も貢献できることがあればと思います。転職を機にオイスカに入会しました。

——「利他の心」はオイスカの活動にも通じていると感じます。どのようになら、その心を育まれてきたのでしょうか

僕は小、中、高、大学と、野球をしていて、ずっとキャプテンを務めていました。キャプテンというのは、この選手が悩んでいるから声をかけてみようとか、仲間やチームのために、常に最優先に考えるので、常に自分後回しになるわけです。その意識が次第



野球を通じて大事なことを経験できました！



甲子園に出場しました

に身につけてきて、気づけば誰かのために動くことが心地よくなりました。プライベートでも、人からありがとうと言われるとやっぱり嬉しいですし、自分より人のために何かをする方が情熱を燃やせます。だから、就職活動の時も、主にみんなが生活で使うインフラ系を候補に入れていました。現在の保険の業務も、ここまで人の人生に深く関わって貢献できる仕事はないと、やりがいを感じています。

——若い力で、ぜひオイスカを引き続き応援いただきたいです

四国でも、今の会員さんは、長くオイスカを支援してきたご高齢の方が多いですね。一方で、若い世代にはオイスカのことあまり知られていないと感じます。若い仲間を増

とある日の。

## 車谷さんの1日



この日は、オイスカの活動に仕事にと、忙しい1日となりました。週末も充実した日々を過ごしています！

06:00 起床

08:00 オイスカのイベントへ

四国支部高松推進協議会主催のゴルフコンペに参加。いいスコアは残せませんでしたでしたが、楽しい時間を過ごすことができました！



16:00 お仕事

ご縁のあった方の豊かな人生の実現に貢献したい一心で、日々一生懸命取り組んでいます。

愛用のスーツを着ると  
気が引き締まります！



19:00 夕食

週末は友人と外食をすることが多いです。香川県の美味しいご飯や屋さんは、ぜひ私に聞いてください！



21:00 サウナ

夕食後はサウナへ。週1回はサウナでリフレッシュする時間を取っています。

23:00 読書

就寝までの時間は、趣味の読書をすることが多いです。自己啓発本を読むことで、日々の成長につながっています。



四国研修センターの研修生修了式に参加

車谷 康太(くるまたに こうた)  
2019年にJR四国に入社後5年間勤務。2年間の役員秘書業務を通じてオイスカの存在を知る。24年3月にソニー生命保険株式会社に転職し、現在に至る。29歳。香川県出身。

やすためには、僕たちのような若手が友だちや同僚をイベントや行事に連れていくことで、活動の素晴らしさを知ってもらえるのではないかと思っています。ほかにも、会員となっている企業の若手を対象としたイベントを開催しても面白いのではないのでしょうか。僕もオイスカの若い仲間を増やせるように頑張りますので、皆さんもぜひ一緒に活動を盛り上げていきましょう！

## お母さんからひとこと



オイスカ四国支部  
事務局

車谷 育代

私は、現在オイスカ四国支部の事務局を担っています。

息子は、小学生から大学まで野球漬けの毎日で、全てのチームのキャプテンを務めて、チームやチームメイトのことを常に考えて苦悩していました。その様子を近くで見っていたので、高校最後の夏の大会で、甲子園に出場できた時の喜びはひとしおでした。そして今も、生命保険

のお仕事で、少しでもお客さまのためにと日々奮闘している姿を、陰ながら応援しています。

昨年の冬に、息子から2023年度の四国研修センターの研修生修了式の写真を見せてもらいました。その時に、オイスカの活動について聞き、そこで改めて人々と自然の関わり的重要性を感じました。私もできることがあればと、24年4月からオイスカ四国支部に勤めるようになり、もうすぐ1年になります。また、12月に私自身も研修センターの研修修了式に事務局として参加した時は、研修に励む研修生たちの姿を近くで見っていた分、彼らの成長した姿にとっても感動しました。これからもオイスカのお手伝いできればと思っています。

—オイスカ—  
歴史さんぽ

Vol.13

インドネシア・パティ県  
私が植えたモクマオウの木！



2016年



2024年

こんなに大きくなり  
マングローブ公園に  
涼しい木陰を  
もたらしていた

Pantai Kertomulyo [検索](#) 公園は人気の観光スポットです。ぜひ検索してみてください！

昨年度まで本誌編集に携わっていたHです。2016年11月号の「“人財”の宝庫インドネシアを訪ねて」と題した特集のため、同年2月にインドネシアの研修センターやマングローブ植林プロジェクトを訪問しました。その際にパティ県で、養殖池の周辺に海岸防風林の役目を果たすモクマオウの木を植えたのですが、24年9月に同地を再訪した際、現地のプロジェクトコーディネーターが、私が植えた木が大きくなっていると事前に情報をくれました。実際に行ってみてビックリしたのは、木の生長ペースもですが、何もなかった周辺のエリアに立派なマングローブの森が育ち、公園として美しく整備され

ていたこと!!

マングローブはその根を張り、土壌を安定させ、地域住民の糧にもなる水生生物を育み、海からの強風や高波を弱めて内陸の生活を守るなど、さまざまな働きをしていますが、ここでは観光資源としても活用されてグリーンツーリズムの中心となっていました。

本誌TOPIC（6-9ページ）で紹介した通り、深刻化する高波の被害は、この公園内の海に面したマングローブの森にも及んでいます（7ページ写真2）。それでもへこたれることなく、力強く前に進んでいるスタッフや村の人たちを日本からも応援したいと思っています。

写真から伝わる  
さまざまな思いに  
フォーカス！





ストリートフード  
としても人気!



\\ バングラデシュの冬の楽しみ //  
ピタ

ピタは、バングラデシュの伝統的な食べ物の一つ。冬に収穫できるナツメヤシのジュースを利用した季節限定のストリートフードであり、友人やお客さんへのちょっとしたおもてなし料理でもあります。

その一つにババピタがあります。「ババ」は「蒸す」、「ピタ」は「お菓子」という意味。バングラ料理は、総じて辛いか甘いかの両極端ですが、ピタは蒸しパンのようなふっくらとした優しい食感で、素朴な甘さのお菓子です。作り方は、まずお米を少し水に浸したあと水気を切り、小さな石臼やまな板の上で、粗目に潰して米粉にします。それを茶碗や型にふんわりと盛り、その上にナツメヤシのジュースを煮詰

めた砂糖やココナツパウダーをのせ、さらに少量の米粉をまぶして、布巾などに包んで蒸し器で2~3分蒸します。蒸しあがったら、ひっくり返してお皿に取り出せば完成です。

辛いのが好きな人は、「チトイピタ」もおすすぬ。からし菜・唐辛子・コリアンダー・乾燥小魚などをすり潰したものがトッピングされ、いろいろな辛味を楽しめます!



CASTLE

お!ススメ  
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」を紹介します!

大ヒット映画のロケ地! アニック城

イングランド ノーサンバーランド州 アニック



映画ハリー・ポッターのロケ地としても有名なアニック城は、美しい自然に囲まれ、天国にいるような気分になれます。11世紀に建設された歴史的建造物で、現在もノーサンバーランド公爵が住んでいるそうです。私は子どもの頃からハリー・ポッターの大ファンなので、いつか絶対に行きたいです。皆さんも自然と歴史、そして映画の一場面に思いを馳せて訪れてはいかがでしょうか。 (中部日本研修センター 研修生S)

2024オイスカ冬募金  
皆さまの思いを世界の現場へ

2021年冬に始めた季節募金も、今回で7回目となりました。スローガン「Be PART of the EARTHー住み続けられる未来ー」のもと呼び掛けた「2024オイスカ冬募金」は、これまで440人の方々から、789万6827円（1月28日現在）のご支援をいただくことができました。変わらぬ温かいご支援に、心より感謝申し上げます。皆さまの思いを未来への希望として、世界各地の現場で大切に活用させていただきます。ご支援に改めて深くお礼申し上げます。



担当 鈴木

ネグロスシルクのランチョンマット

読者プレゼント!



どの色が届くかは  
お楽しみに!

サイズ：30cm×40cm

砂糖産業が盛んなフィリピンのネグロス島は、1980年代、砂糖の国際価格の暴落により、人々は深刻な貧困に直面し、一時「飢餓の島」と呼ばれました。オイスカは、89年に西ネグロス州政府より協力要請を受け、特に生活苦を強いられていた山間部の農家を対象に、養蚕普及に着手。以来、同島のバゴ研修センターを拠点として活動を継続し、現在プロジェクトで生産される生糸は、全国生産量の90%を占めるまでになっています。センターでは、蚕種製造から製糸、製品化まで一貫して行っており、センター内のショール

ームでは、シルクのショールや、織物、蚕の餌となる桑の葉のお茶などが展示・販売されています。その中から、今回は、ランチョンマットを3名にプレゼント。織り込まれた模様がアクセントになって、いつもの食卓を明るくしてくれます。



■応募方法／はがきかメールに住所、氏名、電話番号、今号の感想、「3月号読者プレゼント」を明記の上、左の宛先までお送りください。3月末日締切。TEL: 68-0063

東京都杉並区和泉2-17-5  
公益財団法人オイスカ

「OISCA」編集部  
E-mail: oisca@oisca.org



ネグロスシルクを  
ぜひ身近に  
感じてください!

バゴ研修センター  
渡辺重美所長

研修センター日記

Vol.1

西日本研修センター

日本の最後のお土産!?

西日本研修センターの2024年度の研修生13名(11ヵ国1地域)が、日本での研修を終えて3月8日に帰国します。この1年、多くの事を学び、体験しましたが、1月10日、彼らへの最後のお土産かのように待ちに待った雪が積もってくれました!ほとんどの研修生にとって初めての雪遊び!寒さも忘れて大はしゃぎ!!鼻水垂らしながら駆け回っていました!日本での1年間、四季を通していろんな経験をした彼らですが、春の桜、夏の暑さ、秋の稔り、そして冬の寒さと雪で締めくり、故郷への土産話をたくさん持ち帰ることでしょう。オイスカスピリットも忘れずにね!!(廣瀬)

畑も真っ白!



やっとこさ雪遊びが  
できたよ~



# ご支援ありがとうございます！

## 新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。(2024年11月30日～1月17日までの間、本部登録済分。順不同、敬称略)

- 維持法人  
【東京都】全積水労働組合連合会
- 特別個人  
【神奈川県】石坂博持

- 維持個人  
【北海道】浅山哲也【宮城県】高橋利徳／清野剛／杉原崇【千葉県】山本照夫【東京都】宮里勝政／津野義博【静岡県】若林洋平【愛知県】藤本勝／齋木隆／松川秀康【香川県】岡田浩二／西村光晴／藤岡徹／古竹孝一【徳島県】田岡慶子

## 寄附

2024年11月1日～12月31日までにいただいた寄附は次の通り。(順不同、敬称略)

- 東急ホテルズ&リゾーツ株式会社／啓発普及事業と「子供の森」計画に合わせて726万538円
- COSMOエコ基金／海外開発協力事業に615万3472円

- オルビス株式会社／啓発普及事業(能登震災支援)に100万円
- リタ・マークス株式会社／海外開発協力事業に35万5800円
- 仙台トヨペット株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に30万4540円
- 九州電力株式会社／人材育成事業に30万円

- 一般社団法人MDRT日本会／「海岸林再生プロジェクト」に30万円
- 西尾自動車学校／人材育成事業に25万4428円
- 中武喜久代(宮崎県)／人材育成事業に20万円
- 社会福祉法人西日本新聞民生事業団／人材育成事業に17万円
- オイスカ大垣推進協議会／海外開発協力事業に15万円

- 大豊工業株式会社／人材育成事業に10万1688円

- デリシヤス株式会社／海外開発協力事業と「子供の森」計画に合わせて10万3円

- 四国電力総連／啓発普及事業に10万円

- 雨谷麻世(東京都)／「子供の森」計画に10万円

## 2024 オイスカ冬募金

2024年12月1日～2025年1月24日までに「2024オイスカ冬募金」にいただいた寄附(10万円以上)は次の通り。(順不同、敬称略)

- 株式会社大江鐵工／50万円
- 株式会社manuchi／20万円
- 石見康男(香川県)／15万円
- 森崎敏彦(香川県)／10万円
- 株式会社村金／10万円
- 東洋金属株式会社／10万円
- 森藤左エ門(愛知県)／10万円
- 松井徳之進(静岡県)／10万円

- 佐藤稜威彦(宮城県)／10万円

- 神野春光(愛知県)／10万円

- 根本明美(福島県)／10万円

## 編集後記

今号はTOPICをはじめ、多くのページの執筆・編集を元編集部部長に頼り、1月下旬に初めてフィリピンのネグロス島に出張しました(H部長、ありがとうございました!)。滞在していたバゴ研修センターには向日葵畑があり、静かに太陽を見つめる力強い姿が、ひたむきに活動続ける現地スタッフの控え目な笑顔に似ているように感じました(倉本)



## 今月の表紙写真

Photo by Arifandi



マングローブと背比べをする少女は、植林プロジェクトに携わるおじちゃんに連れられて、いつも活動に参加している大ベテランなのだそう。マングローブと共に健やかな成長を!(インドネシア・パメラサン)

## 次号予告

OISCA  
MAY | 5  
2024

《TOPIC》  
ミャンマー  
研修センターの今(仮)

OISCA 3月号  
発行人/中野悦子  
発行所/公益財団法人オイスカ  
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号  
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111  
E-mail oisca@oisca.org  
編集: OISCA / 吉田俊通 倉本有沙  
アートディレクション/土肥幹人  
デザイン/土肥幹人 坂巻貴行  
印刷・製本/株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。



# 理念 — 人と育む、地球といきる —

## Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

## Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

## Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

## Spirit

Visionを達成するために、  
私たち一人ひとりが  
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 感謝の心を持つ
- へこたれない
- 経験から学び進化する
- 真摯である
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。  
※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは



公益財団法人

オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5

☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111

E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)

<https://oisca.org/>

### 国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103  
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川1120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901  
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町岡5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

### 国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685  
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-265-3350  
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111  
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951  
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529  
富山県支部 〒939-2226 富山市下タ林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128  
静岡県支部 〒431-1115 浜松市中央区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981  
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103  
岐阜県支部 〒503-8603 大垣市久徳町100番地 太平洋工業株式会社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419  
関西支部 〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 新望堂ビル ☎070-5550-7394  
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーA&B/バートナース内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706  
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町岡5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

### OISCA NETWORK

福島 〒963-0534 郡山市日和田町字大塚50-8 南根本産業内 ☎024-958-2643 ☎024-958-3741  
茨城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539  
神奈川 〒231-0021 横浜市中区日本大通り33 神奈川県住宅供給公社ビル1F ☎03-3322-5161  
三重 〒510-0958 四日市市小古曽1-1-7 中村建設(株)内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745  
奈良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277  
徳島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力㈱徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511  
徳島 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682  
高知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572  
佐賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368  
長崎 〒858-0908 佐世保市光町109 ㈱堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069  
熊本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162  
大分 〒870-0001 大分市生石港町2-12-14 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040  
宮崎 〒880-0879 宮崎市宮崎駅東2-4-9 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673  
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833  
沖縄 〒902-0077 那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881